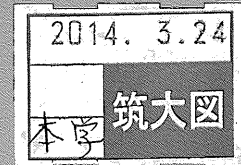


筑波大学人間総合科学研究科学校教育学専攻

学校教育学研究紀要



2014年3月 第7号

University of Tsukuba
School Education
Graduate School of Comprehensive Human Sciences

学校教育学研究紀要

第 7 号

2014年3月

筑波大学人間総合科学研究科
学校教育学専攻

目 次

〈研究論文〉

日中韓における道德資料の比較研究

一 特に韓国の小学校第1学年の

『正しい生活』における「礼」に着目して — …………… 那 楽 1

東京第二師範学校男子部附属小学校の

社会科単元指導計画修正における

『小学校社会科学習指導要領補説』（1948）の影響

一 小山昌一の研究活動の役割に着目して — …………… 篠 崎 正 典 21

G I Sを利用した主題図学習

一 高等学校地理の「国家の結び付き」を

捉えるための航空交通の学習を通して — …………… 國 原 幸一朗 41

児童は生活科で学習したことをどのようにとらえているか

一 児童の言葉と視点から

生活科の意義を探る方法の一提案 — …………… 村 井 大 介 61

経済理解における素朴理論の

科学性と非科学性に関する理論的・実証的研究 …………… 呂 光 暁 83

学校数学における「美しさ」をとらえる枠組みの構築

一 数学における「美しさ」の特色の分析を通して — …………… 花 園 隼 人 105

〈博士論文要旨〉

米国「国際教育」の構造に関する研究

— 社会運動論の分析視角を用いて — 内 山 知 — 129

批判的思考指導論に関する研究

— アメリカにおける思考技能指導の方法と

日本の授業実践への適用 — 樋 口 直 宏 134

景観の意味づけにおける地理的思考に関する研究 梁 炳 逸 140

学校教育学専攻在籍院生研究活動状況一覧 147

学校教育学専攻 機関誌 編集規程・投稿要領 159

編集後記 161

学校教育学専攻在籍院生研究活動状況一覧

2013年1月1日から2013年12月31日までの間に発表されたもので、本人より申告されたもののみを記載した。

《教育内容方法学分野》

相賀由美子（道德教育学）

〈論文〉

- ・「“Berliner Bildungsprogramm”の成立過程に関する一考察 — Ch. プライシングの所論を手がかりに—」, 『道德教育研究』（筑波大学道德教育研究会）第14巻号, 2013年3月, 1-18ページ.

小嶋季輝（教育工学）

〈論文〉

- ・「概念主義と学習者現実の理論的基礎付け：Polanyiの理想に求める学習の主観性研究の展望」, 『学校教育学研究紀要』（筑波大学人間総合科学研究科学校教育学専攻）第6号, 平成25年3月, 19頁～31頁.

那 楽（道德教育学）

〈論文〉

- ・「中国における小学校の道德教育の変遷に関する考察」, 『筑波大学道德教育研究』（筑波大学道德教育研究会）第14号, 2013年3月.

〈学会発表〉

- ・「日中における小学校第1学年の道德資料に関する比較検討—儒教思想の「礼」を手がかりにして—」, 日本道德教育学会第82回大会, 札幌国際大学, 2013年11月3日.

野澤有希（カリキュラム）

〈学会発表〉

- ・「香港の教育課程改革と学校評価の特徴に関する研究」, 筑波大学教育学会, 筑波大学附属駒場中・高等学校, 2013年3月9日.
- ・「香港の校本課程開発における校長の意思決定に関する研究—CIPPモデルの視点を手がかりとして—」, 関東教育学会, 玉川大学, 2013年11月16日.

《教科教育学分野》

石崎友規（理科教育学）

〈論文〉

- ・「探究学習における『ディスカッション』の意義—J.J. シュワブの探究観と探究学習論—」, 『理科教育学研究』(日本理科教育学会) 第53巻 第3号, 2013年3月, 419-427頁.
- ・「科学的な証拠について理解するための教材開発の視点—BSCS 生物『探究への招待』の事例から—」, 『教材学研究』(日本教材学会), 第24巻, 2013年3月, 187-194頁.

〈研究・調査報告書〉

- ・「“A Framework for K-12 Science Education”におけるPracticesの分析視点—BSCS 生物教師用ハンドブック第4版『探究への招待』にみられるシュワブのEnquiry概念—」, 平成24年度～平成26年度 科学研究費補助金 基盤研究(C) (研究代表者:長洲南海男), 『米国の革新的科学/技術・工学/数学教育の解明—日本の教育革新へのビジョン提言—中間報告書』, 2013年5月, 68頁, 47-51頁.

〈学会発表〉

- ・「探究的な学習活動における『探究のナラティブ』の意義—シュワブの探究学習論をもとにして—」, 日本理科教育学会 第63回全国大会, 北海道大学, 2013年8月10日.

〈その他〉

- ・「小学校理科における問題解決能力の評価法の検討—NAEP ScienceにおけるGrade 4向けタスクを例に—」, 『日本科学教育学会研究会研究報告』(日

本科学教育学会), 第27巻第3号, 2013年4月, 11-14頁.

泉 貴久 (社会科教育学)

〈編著書〉

共著

- ・『中学総合的研究 社会 三訂版』, 2013年1月, A5版, 旺文社
- ・『地理A』(平成25年高等学校地理歴史科用検定済教科書), 2013年2月, B5版, 東京書籍.

〈論文〉

学術論文

- ・「新課程高校地理A教科書の特徴—執筆に携わった立場から—」, 『地理教育』(地理教育研究会) 42号, 2013年6月, pp. 6~13.

雑誌論稿

- ・「人口推移=調べ学習のエピソードネタ」, 『社会科教育』(明治図書) 646号, 2013年2月, pp. 78~79.
- ・「持続可能な社会にむけて ESD 実践へのいざない」, 『中学校社会科のしおり』(帝国書院) 29号, 2013年4月, 表紙裏2ページ分.
- ・「国際地理オリンピックで試される「地理的能力」とは—iGeo 2013京都大会へ向けて—」, 『地理』(古今書院) 58巻7号, 2013年7月, pp. 12~19.

〈研究・調査報告書〉

- ・「知られざる国・エルサルバドル」, 研修報告書, 『平成24年度教師海外研修報告書—国際理解教育の授業実践事例集—』(独立行政法人 国際協力機構 地球ひろば), 2013年3月, 92p, pp. 76~81.
- ・「第3章 代表選手 1 選考」実施報告書, 『第10回国際地理オリンピック京都大会実施報告書』(国際地理オリンピック日本委員会実行委員会), 2013年12月, 74p, pp. 17~19

〈学会発表〉

- ・「身近な地域学習から ESD の可能性を探る」, 日本地理教育学会 (例会・実践報告), 専修大学松戸中学校・高等学校, 2013年2月23日.
- ・「地理教育と ESD」, 日本地理学会 (春季学術大会地理教育公開講座・講演), 立正大学熊谷キャンパス, 2013年3月30日 (梅村松秀, 福島義和, 池下誠と

の共同)。

- ・「社会参加能力育成という観点から見た地理教育の意義について—他領域との比較から考察する—」, 地理空間学会 (大会・一般発表), 筑波大学筑波キャンパス春日地区, 2013年6月29日.
- ・「新課程高校地理A教科書の特徴—執筆に携わった立場から—」, 地理教育研究会 (大会・高校分散会), 山陰・はわい温泉 羽衣, 2013年8月5日.
- ・「ESDの視点を取り入れた高校地理授業の実践—アマゾン熱帯林破壊と持続的発展を事例に一」, 日本地理教育学会 (大会・シンポジウム), 佐賀大学文化教育学部, 2013年8月24日.
- ・「地理教育における社会参加学習の課題—学校周辺地域を対象とした授業実践を手掛かりに一」, 日本社会科教育学会 (全国研究大会・自由研究発表), 山形大学小白川キャンパス, 2013年10月27日.
- ・「国際地理オリンピックで試される「地理的能力」とは」, 千葉県高等学校教育研究会地理部会 (秋季研究大会・報告), 千葉県立幕張総合高等学校, 2013年11月6日.

〈その他〉

書評

- ・「永田成文：『市民性を育成する地理授業の開発—「社会的論争問題学習」を視点として—』, 『新地理』(日本地理教育学会) 61巻3号, 2013年2月, pp. 68~71.

教師用指導書

- ・『地理A 指導資料』, 2013年2月, B5版, 東京書籍, 215p, pp. 5~10, pp. 12~13, pp. 36~37, pp. 84~89, pp. 100~105, pp. 130~131, pp. 162~170, pp. 172~173, pp. 200~214.
- ・『地理A シラバス・評価規準』, 2013年2月, PDF版, 東京書籍, 14p, pp. 1~13.
- ・『地理A ワークノート』, 2013年2月, B5版, 東京書籍, 80p, pp. 70~80.

泉 直志 (理科教育学)

〈論文〉

- ・「中学校理科教育におけるアーギュメントの構成活動促進を指向した教材開発

—『水溶液とイオン』の授業を事例として—, 『科学教育研究』(日本科学教育学会), 第37巻, 2号, 2013, 184-195頁.

- ・「理科授業へのアーギュメント導入を指向した教師教育用教材」, 『教材学研究』(日本教材学会), 第24巻, 2013, 211-218頁.

〈その他〉

- ・「初等教育段階における米国新フレームワークの科学的実践の取り扱い」, 『日本科学教育学会研究会研究報告』(日本科学教育学会), 第27巻, 3号, 1-6頁, 2013.

伊藤哲章 (理科教育学)

〈編著書〉

- ・「先端科学と理科授業」, 大高泉編, 『理科授業の理論と実践 中学・高等学校編』, 2013年2月, 協同出版, 253頁, 222-227頁.

〈論文〉

- ・「理科教育からみた幼稚園の領域・環境と小学校生活科のものづくり活動の特徴」, 『郡山女子大学紀要』, 第49集, 2013年3月, 155-165頁.
- ・「アメリカ初等科学教科書における算数科との関連付け」, 『郡山女子大学紀要』, 第49集, 2013年3月, 167-177頁.

〈学会発表〉

- ・「高校生物におけるバイオテクノロジーの教育に関する研究」, 日本理科教育学会, 北海道大学, 2013年8月9日.

〈その他〉

- ・「イギリスの初等理科教科書 (Key Stage 1, 2) の分析」, 『日本科学教育学会研究会研究報告』(日本科学教育学会), 第27巻第3号, 2013年4月, 57-60頁.

稲田結美 (理科教育学)

〈編著書〉

- ・「理科学習におけるジェンダー問題克服のためのカリキュラム」, 日本理科教育学会編, 『理科の教育』, 2013年2月, Vol. 62, No. 727, 東洋館出版社, 71頁, 38-39頁.
- ・「女子の理科学習の問題点と改善の視点」, 日本理科教育学会編, 『理科の教

育』, 2013年 8 月, Vol. 62, No. 733, 東洋館出版社, 76頁, 13-16頁.

〈論文〉

- ・「理科学習に対する女子の意識と態度の改善に関する実践的研究—中学校理科「電流」単元を事例として—」, 『理科教育学研究』(日本理科教育学会), 第54巻, 第2号, 2013年11月, 149-159頁.

〈学会発表〉

- ・「教員養成課程学生における理科に関する意識と経験の男女差」, 日本理科教育学会第63回全国大会, 北海道大学, 2013年 8 月11日.

榎本哲士 (数学教育学)

〈論文〉

- ・「学校数学における文字式の理解を捉える枠組みの構築：関数的アプローチを視点として」, 『数学教育学論究』(日本数学教育学会), 第95巻, 平成25年11月16日, pp. 25-32.

遠藤優介 (理科教育学)

〈論文〉

- ・「『評価』 コンピテンシーの育成を指向した化学教材—Chemie im Kontext の前期中等教育段階用教材に焦点を当てて—」, 『教材学研究』(日本教材学会), 第24巻, 2013年 3 月, 179-186頁.

〈学会発表〉

- ・「ドイツ科学教育におけるコンピテンシー段階モデルの構築—IQB の取り組みに着目して—」, 日本理科教育学会第63回全国大会, 北海道大学, 2013年 8 月11日.
- ・「ドイツ諸州における科学教育課程改革の展開—ニーダーザクセン州ギムナジウム上級段階を例にして」(課題研究発表), 日本科学教育学会第37回年会, 三重大学, 2013年 9 月 8 日.

〈その他〉

- ・「コンピテンシー指向の初等科学カリキュラム—ドイツニーダーザクセン州における教科『事実教授』のカリキュラムを例として—」, 『日本科学教育学会研究会研究報告』(日本科学教育学会), 第27巻第3号, 2013年 4 月, 7-10頁.

大鷹竜午（理科教育学）

〈学会発表〉

「実験活動における認知的プロセスとしての変数同定の指導」, 日本理科教育学会第62回全国大会, 北海道大学, 2013年8月10日.

勝田 光（人文学科教育学）

〈論文〉

・「創作指導における学習者の物語改作過程のケーススタディー教室談話と授業後インタビューの分析」『国語科教育』, 第75集 2014年3月, (印刷中).

〈学会発表〉

・「創作指導における学習者の物語改作過程のケーススタディー教室談話と授業後インタビューの分析」, 日本読書学会, 林野会館, 2013年8月4日.

・「〈私の読み〉の形成過程に関する事例研究—中学2年生の「サーカスの馬」(安岡章太郎)に対する読者反応の分析—」, 九州国語教育学会, 福岡教育大学, 2013年9月14日.

・「〈私の読み〉の形成過程に関する事例研究—単元「文学の学び方～『走れメロス』による～」の分析—」, 全国大学国語教育学会, 広島大学, 2013年10月26日.

勘米良祐太（人文学科教育学）

〈学会発表〉

・「明治後期における文法教育の位置づけの変化—中学校教授要目の規定の分析を通して—」, 筑波大学教育学会, 筑波大学附属駒場中・高等学校, 2013年3月9日.

・「三土忠造『中等国文典』の歴史的考察—作文教育とのかかわりから—」, 日本読書学会, 林野会館, 2013年8月4日.

・「国語科成立後における中学校国語科の言語形式—「文法上許容すべき事項」の適用状況を手がかりに—」, 全国大学国語教育学会, 広島大学, 2013年10月26日.

國原 幸一朗（社会科教育学）

〈編著書〉

- ・「地域間の結びつき」, 秋本弘章・林敦子編著, 『新編地理A 教授資料』, 2013年3月, 初版, 二宮書店, 総167頁, 16-22頁.

〈論文〉

- ・「意思決定までの学習過程からみた地理教育におけるGISの役割—全米地理教育スタンダードとナショナル・カリキュラム地理を手がかりに一」, 『中等社会科教育研究』(中等社会科教育学会), 第31号, 101-112頁.
- ・「映像を用いた世界史の授業からみた大学生の歴史認識の形成—導入教材から内容教材への転換を求めて—」, 『麗澤大学紀要』, 第97巻, 141-158頁.

〈研究・調査報告書〉

- ・「地域の文化を創造する学校教育—神島小学校の表現活動を事例として—」, 井田仁康, 『地域と教育 第12号』(筑波大学博士課程人間総合科学研究科学学校教育学専攻「社会科教育学特講」調査報告), 2013年9月, 123頁, 30-61頁.

〈学会発表〉

- ・“Disaster prevention study which is based on the spacial features and changes using GIS and hazard maps”, International Geographical Union (IGU2013), Kyoto, 4-9, August, 2013.
- ・「GISを取り入れたフィールドワーク」, 日本地理教育学会, 佐賀大学, 2013年8月25日.
- ・「思考力・判断力を養うためのGISの利用」, 日本社会科教育学会, 山形大学, 2013年10月27日.

小泉友香（数学教育学）

〈論文〉

- ※Koizumi, Y. 「Similarities and differences in teachers' questioning in German and Japanese mathematics classrooms」, 『ZDM - The International Journal on Mathematics Education』45 (1), pp. 47-59.
- ・小泉友香. 「数学科授業における相互行為の構成に関する一考察—日独両国の比較を通して—」, 『日本数学教育学会誌 数学教育学論究 臨時増刊』, 第95

卷, pp. 137-144.

〈学会発表〉

- ※Koizumi, Y. 「Analyzing teachers' questioning in the sequence of mathematics lessons: A comparison between German and Japanese classrooms」, The 6th East Asia Regional Conference on Mathematics Education (EARCOME6), Phuket, Thailand, March 17th-22nd, 2013.
- ※Koizumi, Y. & Shimizu, Y. 「The Cultural Specificity of teachers' questioning in the introduction of new mathematical concepts in German and Japanese mathematics classrooms」, The 37th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education (PME37), Kiel, Germany, July 28th - August 2nd, 2013.
- ※Koizumi, Y. & Shimizu, Y. 「Characterizing Experienced Teachers' Questioning in Mathematics Classrooms: Questioning as a Window for Examining Teachers' Competence」, 15th Biennial EARLI Conference for Research on Learning and Instruction, Munich, Germany, August 27th-31st, 2013.
- ・小泉友香・日野圭子 「日本の経験豊富な教師による算数科授業における相互作用の構成」, 科学教育学会, 2013年9月7日.

花園隼人 (数学教育学)

〈編著書〉

- ・「教材活用 解析幾何・ベクトル」, 日本教材学会 (編), 『教材事典 教材研究の理論と実践』, 2013年9月, 初版, 東京堂出版, 622, 161.
- ・「教材活用 微分・積分」, 日本教材学会 (編), 『教材事典 教材研究の理論と実践』, 2013年9月, 初版, 東京堂出版, 622, 166.

〈学会発表〉

- ・「原理の探究を重視した「空間図形」の実践と考察—中点連結定理の一般化を教材として—」, 日本数学教育学会, 山梨県立甲府第一高等学校, 2013年8月4日.
- ・「高等学校数学科における審美的価値を追求する教材の開発—二重根号がはずれる条件に焦点を当てて—」, 日本教材学会, 日本大学文理学部, 2013年10

月20日.

- ・「数学的問題解決過程における審美の基準に関する一考察—高校生の問題解決過程の分析—」, 日本数学教育学会, 宇都宮大学, 2013年11月17日.

花岡隆行 (カリキュラム)

〈論文〉

- ・「モンテッソーリ教育における教具の意義—系統性に焦点をあてて—」『モンテッソーリ教育』第45号, 2013年3月, 66-75頁.

宮本直樹 (理科教育学)

〈論文〉

- ・「小学校理科教科書物理分野におけるデータ解釈の記述分析」, 『教材学研究』(日本教材学会), 第24巻, 2013年3月, 195-202頁.
- ・「米国初等科学教科書の物理单元におけるデータ解釈スキル」, 『物理教育』(日本物理教育学会), 第61巻, 第4号, 2013年12月, 181-186頁.

〈学会発表〉

- ・「中学校理科における仮説設定とデータ解釈との関連に関する研究—『定比例の法則』を事例にして—」, 日本理科教育学会第63回全国大会, 北海道大学, 2013年8月11日.

村井大介 (社会科教育学)

〈論文〉

- ・「公民科教師の教科観の特徴とその形成要因—教師のライフストーリーの語りに着目して—」, 『公民教育研究』(日本公民教育学会) 第20号, 2013年3月, 49-66頁.
- ・「社会科教師の専門性に関する言説の展開とその課題—社会科教師研究における新たな方法論の確立を見据えて—」, 『中等社会科教育研究』(中等社会科教育学会) 第31号, 2013年3月, 71-85頁.

〈研究・調査報告書〉

- ・「防災についての知識と意識は地域でどのように共有されているか—三重県鳥羽市神島を事例として—」, 筑波大学博士課程人間総合科学研究科教育学専攻

「社会科教育学特講」調査報告、『地域と教育』第12号，2013年9月，62-94頁。
〈学会発表〉

- ・「1989年の高等学校社会科解体の意味と機能—社会科解体に関する言説のレトリック分析と教師のライフストーリーの視点から—」，筑波大学教育学会第11回大会，筑波大学附属駒場中・高等学校，2013年3月9日。
- ・「ライフストーリーからみた公民科教師の授業観—うまくいった授業実践は如何に語られるか—」，日本公民教育学会第24回全国研究大会，岡山大学，2013年6月22日。
- ・「教師教育研究の諸類型と研究方法の一提案—『日本教師教育学会年報』〈研究論文〉のレビューを手がかりにして—」，日本教師教育学会第23回研究大会（課題研究発表），佛教大学，2013年9月16日。
- ・「地理歴史科教師の歴史教育観の特徴とその形成要因—教師のライフストーリーの聴き取りを通して—」，日本社会科教育学会第63回全国研究大会，山形大学，2013年10月26日
- ・「社会科教師のキャリア形成と直面する課題—二種類の物語の視点から—」，中等社会科教育学会第32回全国研究大会（シンポジウム），筑波大学，2013年11月2日。

山本容子（理科教育学）

〈編著書〉

- ・「環境教育の展開と理科授業」，片上宗二・池野範男監修，MINERVA 21世紀教科教育講座（全12巻），大高泉編，『新しい学びを拓く理科授業の理論と実践 中学・高等学校編』，2013年2月，初版，ミネルヴァ書房，253頁，211-222頁。

〈論文〉

- ・「アメリカのBSCS生物教科書A Human Approachにおける環境倫理に関するカリキュラムの特質—「生態：生命システムにおける相互作用と相互依存」を事例として—」，『生物教育』（日本生物教育学会），第53巻第4号，2013年4月，176-189頁。

呂 光暁（社会科教育学）

〈論文〉

- ・「経済理解における素朴理論に関する研究」『中等社会科教育研究』（中等社会科教育学会）第31号，2013年3月，87－100頁.

〈研究・調査報告書〉

- ・「地域教材を扱う産業学習の単元構想—神島の漁業を事例として—」，井田仁康，「社会科教育学特講」調査報告，『地域と教育』第12号，筑波大学博士課程人間総合科学研究科学校教育学専攻，2013年9月，123頁，95－113頁.

〈学会発表〉

- ・「小学校社会科における児童の素朴理論に基づく経済学習の試み—単元「米の値段」(5年)を事例として—」，日本公民教育学会，岡山大学，2013年6月22日.
- ・「経済理解における素朴理論の科学性と非科学性について」，日本社会科教育学会，山形大学，2013年10月27日.

渡会陽平（数学教育学）

〈学会発表〉

- ※“An Analysis of Students’ Bases for Writing an Expression of Multiplication by a Decimal in Rule-of-Three Problems”, Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education (PME37), Kiel, Germany, 2013年7月30日.

学校教育学専攻 機関誌 編集規程・投稿要領

機関誌名： 学校教育学研究紀要

編集規程：

1. 本誌は筑波大学大学院人間総合科学研究科学校教育学専攻の研究紀要であり、年1回3月末発行とする。
2. 本誌には、筑波大学大学院人間総合科学研究科学校教育学専攻の大学院生、修了生、研究生、教員の研究論文、その他の研究記事を掲載する。
3. 本誌の編集は、学校教育学専攻内の編集委員会が担当する。
4. 本誌の原稿の採否は、レフリーの審査を経た後に編集委員会で決定する。
5. 採録論文の著作権は著者に属するが、編集委員会は著者から個別に同意または許諾を得ることなく、その頒布のために複製、媒体変換及び公衆送信することができるものとする。

投稿要領：

1. 投稿できる者は、本専攻の大学院生、修了生、研究生、教員および編集委員会が認めた者とする。
2. 本誌への投稿は、未発表のものに限られる。
3. 投稿は以下のものとする。

研究論文：学校教育学に関する研究

40字×30行×17枚以内（図・表を含める）

学校教育学情報：本専攻の院生、教員などがかかわる有益な情報など

40字×30行×2枚程度

本専攻院生の当該年の研究成果・活動リスト

4. 原稿はワードプロセッサで書くことを原則とし、A4版40字×30行で作成する。なお、使用する言語は、日本語、英語を原則とするが、その他の言語での投稿の要望があった場合は編集委員会の議を経て許諾を決定する。日本語以外の言語での執筆の場合は、日本語の頁数に準じる。
5. 日本語での執筆の場合、英文の要約を300語程度で付す。また、日本語以外の言語の場合、日本語で800字の要約をつける。

6. 投稿原稿は、いずれの場合にも、投稿者氏名・所属・連絡先を付記し、正本1部と複写3部を編集委員会に提出する。なお、研究論文の原稿には①原稿の種類、②表題、③英文表題（サマリー）のみを明記し、著者名等、著者が特定できる情報は記さないものとする。
7. 原稿の締め切りは11月末とする。
8. 投稿先は下記とする。

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学大学院人間総合科学研究科学学校教育学専攻
「学校教育学研究紀要」編集委員会

編集後記

『学校教育学研究紀要』はこの第7号をもって終刊とすることとなりました。本誌創刊号において編集委員会委員長だった塚田泰彦氏は編集後記において次のように述べています。

本専攻は「今日の学校教育をめぐる問題の複雑化・深刻化に対処するとともに、最先端の学校教育学研究の地平を切り開き、学校教育の具体的実践活動に積極的にかかわる高度な専門的能力を有する研究者の養成」を目的としています。本専攻が、この目的にこたえるためにも、院生・教員・修士生が一丸となってこの難局・難問題に意欲的に取り組み、様々な課題についてのオリジナルな提案を世に問う場となることを願って本誌を創刊いたしました。

以後今号に至るまでの間に創刊号に刻まれた目的の一端は達成しえたのではないかと思います。

来年度からは『教育学論集』『教育学系論集』などと統合し、新しいかたちでの論集を刊行する方向で現在準備を進めているところです。今日の「学校教育をめぐる問題の複雑化・深刻化」への積極的な対応として受け止めていただければ幸いです。

今後、新しい論集についての詳しい情報は、筑波大学人間系教育学域ホームページに掲載します。今号はもとより、新しい論集に掲載される論文群につきましてもこれまでと同様、忌憚のないご意見をお寄せくださるようお願いいたします。

(甲斐雄一郎)

学校教育学研究紀要編集委員会

編集委員会委員長

甲斐雄一郎

編集委員会

磯田 正美

根津 朋実

樋口 直宏

蒔苗 直道

学校教育学研究紀要 第7号

2014年3月31日 発行

編集・発行 筑波大学人間総合科学研究科
学校教育学専攻

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

印刷 株式会社いなもと印刷
電話 029(826)1221
